

2015年のシルバーウィークは天候に恵まれどこの山小屋も大変な賑わいだった。今年は飛び石連休ではあるが、17～19が三連休、22、24、25が祝、週末ということもあり、昨年に続き山小屋は混雑予想。

一週間ちょっとという短期間であるが、以前からお世話になっている山小屋(三俣山荘)にお手伝いに行くことにする。

今回はその道中のブナ立て尾根から水晶小屋までの記録である。

例年小池新道という新穂高ロープウェイのある岐阜県側から入山していたが、今回は歩いたことのない長野県に位置するブナ立て尾根から入山する。この尾根は日本三大急登と呼ばれる急登の一つに当たる。(残りの二つは甲斐駒ヶ岳に登る黒戸尾根、谷川岳に登る西黒尾根が日本三大急登と呼ばれている。ウィキペディア参照)

尚、今回はタイムアップの記録を紛失したため、時間の記録は未記載であることをご容赦願いたい。

9月16日(金)

前日に山小屋関係者の方のご自宅に泊めてもらい、登山口となる七倉山荘まで車で送っていただく。登山前の準備運動をしている登山者が数人。マイカー規制のため一般の車はここまでしか入れず、この先の高瀬ダム堰堤上までは徒歩かタクシー利用となる。

<ポイント1>

七倉山荘:北アルプス裏銀座の登山口にある。烏帽子から槍ヶ岳や、七倉岳から針ノ木岳へと登山、高瀬ダムや黒部ダム等の観光にも利用できる。朝一番の高瀬ダム行タクシーに乗車可能。宿泊や休憩、食事、源泉掛け流しの露天風呂も有り、日帰温泉も好評。冬季休業期間もあるので、詳細は七倉山荘ホームページ参照。<http://www.webmarunaka.com/nanakura/index.html>

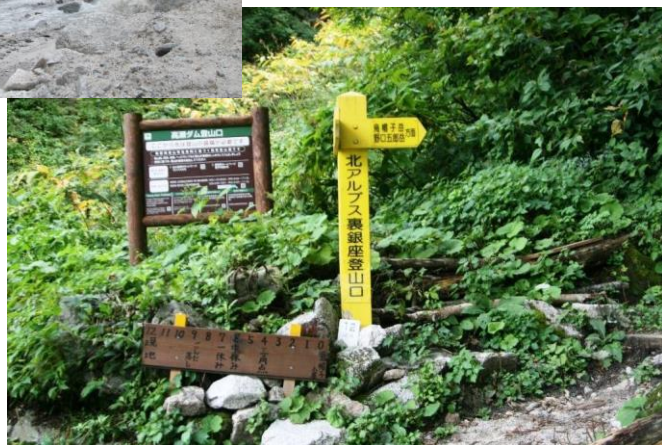
<ポイント2>

七倉山荘～高瀬ダム(特定タクシー):所要時間15分 料金片道2,200円位。4人まで乗り合い可能。団体の場合は事前にタクシー会社に連絡。連続雨量が累計70mm又は時間雨量15mmに達した時は通行禁止となる。季節によって通行期間、時間が異なるため利用の際は事前に詳細を調べることをお勧め。信濃大町ホームページ(登山・トレッキング項目)参照。<http://www.kanko-omachi.gr.jp/>

(雨量が多いとこの丸太橋が流され、天候によるが修復には数日かかる。↓→)



(ブナ立て尾根取り付き  
左手に水場 ↓)



## ブナ立て尾根登山口

正面向かって左手に沢があり、水場になる。裏銀座縦走コースにある小屋はほとんどが天水でまかなっているため、登山者もここでしっかり水を補充していくことをお勧め。

## いよいよ登山開始

ブナ立てコースは、ブナ立て尾根取付き口から登りつめた烏帽子小屋まで No.12~No.0 と標識が立っている。標識を基準にペース配分に気を付けて楽しく登ろう！！しかし、さすが日本三大急登。最初から急登である。パイプで作られた階段もいくつか現れる。No.12~から No.6 ぐらいまでは、それなりにいいタイムで通過していたが、No.5 が登っても登っても出てこない…これは等間隔に設定されたものではないと気づく。

後方から登山者が一人、すいすいと登ってくる。先に行ってもらおうと登山道から外れ休憩。水を飲んでいるとその登山者も同じ位置で休憩。仕方がないので先に出発する。しばらくするとまた先ほどの登山者が後方に…ちょうど右手に山々も見えてきたので、写真でも撮っている間に先に行ってもらおうと考え写真撮影する。鹿島槍かな？と思っていたら、その方も写真撮影で立ち止まってしまふ…これは…先に行く気はないと判断し、後方にいても気にせず歩くことにする。

9 月の中旬ではあったが、ブナ立て尾根の紅葉はまだまだの様子。遠くの間々を堪能しながら急登を登る。不動岳方面の間々は崩落が進みつつある。岩肌が白く禿げている。数年前に不動岳方面を縦走した時はかなり砂地になっていた記憶がある。山の形は年々変わっているのであろうか？



(崩落している山の一部)



(歩いているブナ立て尾根)

## 烏帽子小屋 標高 2,500m 到着

正面に赤牛岳、水晶岳が現れる。いい景色である。

明日の後半からしばらく天気が崩れる予報

(このころ台風が来ていた)であったが、今日の天気

に感謝。  
烏帽子小屋に宿泊されていたご夫婦の登山者、本来であれば今日は雲ノ平で一泊して、翌日ブナ立て尾根から下山しようと計画していたが、天気予報を聞いて今回は断念すること。

…シルバーウィークの天気が心配になる。

後方に歩いていた登山者も到着。

空身で烏帽子岳に登りに行くとのこと。

健脚である。



(これから向かう三ツ岳方面)

烏帽子小屋の前にある木のベンチに座り、景色を見ながら軽く食事を摂る。何時間でも眺めていられるが 30 分休憩して、次の通過点となる三ツ岳を目指す。今度は急登でなくなだらかな登りが続く。名前の通り三つのピークからなる三ツ峠、天気が悪ければ巻き道で通過しようと思ったがせつかなので展望コースを歩くことにする。歩いているとどこがピークかわかりにくい山であるが、見た目通り大きな山だな～と感じる。展望もばっちり！！稜線は悪天候や強風の際は避けたい道だが、穏やかな日は本当に気持ちの良いコースである。

三ツ峠を過ぎたあたりで本格的に昼食を摂っていると歩いてきた道から一組の夫婦が登ってくる。交わした会話で同じ水晶小屋が目的地ということがわかる。食事が済んだので先に出発する。

野口五郎小屋までは下りの道となる。ここも普段は風が強いため、小屋にはたくさんの「重し」となる石が載せられている。野口五郎岳には登り返しとなる。大きな石の間を登る。



(野口五郎岳までの途中→)

(←小屋の屋根や外のドラム缶全てに強風対策として重石が載せられている)



野口五郎岳 標高 2924.3m山頂着

来た道を振り返る。先ほどのご夫婦が向かってくる。ご主人が「この道は通ったことがなく、家内と二人（登山者もほとんどいなく）でちょっと心配なので、後ろをついていってもいいですか？もちろん気にせず歩いていただいて大丈夫ですから。」…「それは全然問題ないです。でも、お二人ともよく山に行かれている感じですが。」…「何せ山始めたのも 5 年ぐらい前で、年齢も 68 歳と 65 歳でして。」ひえ～～！！そんな年齢には見えない！！歩くペースなんてご主人、私と変わらないぐらい。息が切れることなくひよいひよい歩いている。すごい！！なんて元気なご夫婦！そして 60 歳になってから二人で仲良く登山始めるなんていいなあ！！しばらくご一緒登山となる。



(野口五郎岳と槍岳)



野口五郎岳から真砂岳に向かう途中、五郎池が谷間の下の方に見える。クマの生息地？なのかよく発見されるとのこと。目を凝らしてみるが今日はいないようだ。谷間は徐々に紅葉が始まっている。遠くに目指す水晶小屋も見える……。まだまだ遠いなあ……。

真砂岳を過ぎると一度下り、竹村新道との分岐にぶつかる。(竹村新道の詳細はコレクション第374号2015年11月号(やまのかたりべ第60章)をご覧ください。)

(野口五郎岳過ぎた辺りの水晶岳 水晶小屋が小さく見える)

ここから大きな岩がゴロゴロ現れる。岩にはマーキングがしっかりされているが、視界が悪いときは見落としやすくなるため要注意だが、個人的には大きな岩のコースは結構好きである。一度登ってから下ると東沢乗越(標高 2,734m)に着く。ここで水分補給の休憩となる。ここから水晶小屋まではほぼ登りの道となる。地図上では 40 分で着く予定。「ここまでくれば大丈夫です、ありがとうございました。おかげでここまで来ることができました。あとは家内とのんびり行きます。」とご主人は煙草手に休憩。「足場が狭いところもあるので気を付けて。水晶小屋で会いましょう～」と私は先に出発。

東沢乗越から水晶小屋までは、痩せた尾根伝いを歩く。ロープがかかっている箇所もある。細い岩場を通り抜け、ちょっとしたアップダウンを繰り返した後、最後にとどめとなる登りが現れる。酸素が薄いので、結構息が上がる。

水晶小屋 標高 2,890m 到着  
稜線上にある小屋の中でも最も小さい小屋になるのではないかな？  
展望は本当にすばらしい。  
北アルプスの小屋のなかでも常に混んでいると評判の小屋だが、本日は布団一枚に一人で案内される。ありがたい。

小屋の詳細はホームページ <http://kumonodaira.net/index.html> 参照。



(東沢乗越すぎたあたり)



(水晶小屋裏にある赤岳より 鷲羽岳、ワリモ岳方面)

先ほどのご夫婦が小屋に到着。小屋にある鐘を鳴らしてお迎えする。「お疲れ様でした～！！」お互いに笑顔で握手。奥様が「あなたがいなかったら今日ここまで来られなかったと思います。本当にありがとうございます。」とこちらが恐縮してしまうほど丁寧なご挨拶を頂き面映ゆい。素敵なお夫婦と短い時間だが一緒に歩けたこと。裏銀座にまた一つ素敵な思い出が増えた。ありがとうございました。

文責:松田留美